

Computer Report

Vol. 59 No. 4 4月号 (通巻 775号)

はじめの言葉

■プロ野球のイチロー選手が、東京ドームで開催された大リーグ公式戦の後、ついに引退発表をした。日米通算で 4367 本の安打数（日本で 1287 本、アメリカで 3089 本）は世界一である。首位打者回数、年間安打数首位の回数など、記録的に枚挙の暇はないとは、彼のためにある。東京ドームで開催された米国メジャー開幕戦も、彼の引退発表も、文字通り劇的なものだった。野球ファンならぬとも忘れられない歴史の 1 ページとなった。

■「50 歳まで現役」を口にしながら叶わなかった。自らこれを「有言不実行」だとして悔しさを見せる場面が引退会見にあった。50 歳現役は元より信じ難いことだが、「彼ならあり得る」と思わせた。それほど「あり得ない偉業」を積み重ねてきた彼の言辞だったからこそである。周囲に「とてつもない夢」を持たせてくれ、実際に見せてくれた野球人生だった。まだ終わりでない不出世の野球人の更なる今後に注目したい。

■沖縄の埋め立て工事をめぐる住民投票の結果を見て、「県民の皆様の意見を尊重し、丁寧な説明と了解を得て行きたい」と明言した安倍総理大臣だったが、一切を無視した形での工事続行／工事拡大作業に着手している。もちろん、この間に丁寧な説明もなければ、県民の了解を得たとは言い難い状況にある。これほど極端な「有言不実行」はない。安倍首相にとっては、これが彼の流儀であり十八番だということだろう。

■未だに解決とはほど遠いままの状態にあり、くすぶったままの「モリカケ問題」だが、この問題でも「丁寧な説明をして、国民のご理解を求めたい」を繰り返すばかり。この言辭が明確なだけで、一向に実行される気配がない。むしろ、端から不実行を決めつけているとしか思えない。戦後最長の在職期間だということだが、まさに、民主主義の根幹を踏みにじった「悪夢の時代だった」と後世の歴史書は伝えることだろう。

■「権力を官僚から政治家の手に」とした安倍政権だが、果たして現実には、官僚のトップ人事権を手中にし、国家の全権を首相官邸に集中させることで、周囲全てに付度を強制する独裁体制を確立したに過ぎない。国権の三権分立の原則すら踏みにじられる悪政／悪夢が実践されている。マスコミはこれを「安倍一強時代だ」などと傍観している。独裁政権体制状態にあることすら見抜けていない。

■権力が一極集中した場合、どういう悲劇が起こるか。私企業ですら不具合がいろいろと生じる。20 年間、絶対権力者ゴーン容疑者に思いのままにされてきた日産自動車では、一気に問題が表面化されようとしている。企業私物化は、ゴーン容疑者の子弟の学費まで企業が肩代わりするまでに及んだとする指摘も出てきた。権力の魔力に捉われ、理性を悉く失い、悪夢に自らが溺れ果てたゴーン被告の実像が暴き出されようとしている。

■「有言不実行」というより、文字通りの「口先男」の安倍晋三首相だが、政治家としての発言の重さは、一実業家のそれとは大きく異なる。ましてやスポーツ界の英雄イチロー選手のそれと、比較するだけでも申し訳ないが、本来は、それより更に崇高なものでなくてはならない。現実として、その真逆であることが口惜しい。政治的決断には、矛盾が付き物であることは承知している。それにしても、お粗末さが過ぎる。（藤見）